

## 『育てる』水産特集

日本食を支える重要なタンパク源である「魚」。おすしとして生で食すという文化も世界中に広まったが、食文化が多様になればなるほど、魚の消費は増えていく。天然魚は個体数が減り、生態系にも影響が出るほど捕獲は限界に近い。

今後も私たちが水産物を食べ続けられるかどうかは、「水産養殖」の未来にかかっている。農業や畜産のように、水産物も人の手で育てたものを持続的に消費することの重要性が高まる中、商社各社も水産物取り扱いのノウハウや国内外のつながりを生かして、積極的に養殖分野に参入している。

水産養殖の現状を踏まえて『育てる』水産の将来を考える本特集では、水産庁、商社、豊洲市場の卸売関係者から寄稿・インタビューのご協力をいただき、水産養殖を取り巻くビジネスの現状や展望を紹介している。水産養殖の市場が拡大する中で、関連産業の今後の発展に向けたヒントとなれば幸いである。